



# 「常温」を楽しむ社会へ

～ この先 良くも悪くもならない世の中を、ポジティブに ～

- 「日本の行方は、現状のまま特に変化はないと思う」  
2008年 32.3% → 2016年 54.1% (21.8ポイント増)
- 身の周りに多いのは「いやなこと」より「楽しいこと」  
身の周りに多いこと (2016年)・・・「楽しいこと」43.3% > 「いやなこと・腹のたつこと」36.7%
- 生活態度の4つの特徴 ～公より私、先より今、期待より現実、依存より自立～

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測するため、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける定点観測型のアンケート調査「生活定点」を2年に1度、実施しています。このたび2016年調査を行い、「生活定点」調査の1992年から2016年までの24年間の時系列分析から、生活者の意識・価値観の大きな変化を発見しましたので、ご紹介いたします。

また、2016年調査を受け、「生活定点」調査の24年間・約1,500項目におよぶデータを無償公開するWEBサイトも、リニューアル・オープンしました。データ分析が身近でない方にも、意外な発見や発想のヒントを得ていただける各種コンテンツをご用意しています。(制作協力：チームラボ株式会社)

## 分析結果のポイント

「生活定点」調査の分析の結果、日本の“失われた20年”という激動の時代を経て、2010年前後から、生活者に「この先は良くも悪くもならない」という認識が広がっていることがわかりました。生活者は、社会や時代に必要以上に熱く怒りを感じることも、悲観して冷え込むこともなく、現状を静かに受け止め、身の周りに幸せを感じながら暮らしています。博報堂生活総研では、この、ありのままを快適とする生活者の心情を、「低温」ではなく、「常温」と捉えました。「常温」を楽しむ社会では、人びとは自分自身の今を大切に、現実的で自立した生活をしているようです。

### 生活者による時代認識

#### ■ この先 良くも悪くもならない世の中

- 「日本の行方は、現状のまま特に変化はないと思う」：2008年 32.3% → 2016年 54.1% (+21.8pt)
- 「今後の暮らし向きは、同じようなものだと思う」：2008年 39.8% → 2016年 49.0% (+9.2pt)
- 「今の世の中は変化が多すぎると思う」：2008年 59.8% → 2016年 43.6% (-16.2pt)

### 生活意識の変化

#### ■ 高まる、身近な幸せへの感度 ～身の周りに多いのは「いやなこと」より「楽しいこと」～

- 「身の周りで楽しいことが多い」：2008年 37.5% → 2016年 43.3% (+5.8pt)
- 「身の周りでいやなこと・腹のたつことが多い」：2008年 43.4% → 2016年 36.7% (-6.7pt)

### 生活態度の4つの特徴

#### ■ 公より私 ～社会より個人生活の幸せをまず確保～

- 「環境保護につながる行動を実行している」：2008年 52.7% → 2016年 37.4% (-15.3pt)
- 「日本人は、国や社会のことより、個人生活の充実にもっと目を向けるべきだ」：2008年 22.8% → 2016年 30.5% (+7.7pt)

#### ■ 先より今 ～今の充実を大切にする～

- 「毎月、決まった額の貯金をしている」：2008年 34.5% → 2016年 30.4% (-4.1pt)
- 「現在お金をかけているもの」(23項目の反応値(%)の合計)：2008年 327pt → 2016年 362pt (+35pt)

#### ■ 期待より現実 ～愛よりお金。確実に役に立つものを重視～

- 「愛を信じる」：2008年 83.9% → 2016年 80.5% (-3.4pt)
- 「お金を信じる」：2008年 78.6% → 2016年 81.8% (+3.2pt) } 逆転

#### ■ 依存より自立 ～依存しないことで、お互いの幸せを確保～

- 「休日にはできるだけ家族と一緒に過ごしたいと思う」：2008年 52.6% → 2016年 47.0% (-5.6pt)
- 「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方がいいと思う」：2008年 32.9% → 2016年 24.3% (-8.6pt)

## その他のトピックス

## ■ 「友達疲れ」が鮮明に

- ・「友人は多ければ多いほどよいと思う」：1998年 57.2% → 2016年 24.4% (-32.8pt)
- ・「人づきあいは面倒くさいと思う」：1998年 23.2% → 2016年 31.3% (+8.1pt)

## ■ 増やしたい時間は、趣味より睡眠

- ・増やしたい時間「睡眠時間」：1996年 54.2% → 2016年 56.0% (+1.8pt)
- ・増やしたい時間「趣味にかける時間」：1996年 62.2% → 2016年 55.2% (-7.0pt)

} 逆転

## ■ 買物スタイルは、お金の「節約」からポイントの「獲得」へ

- ・「最近1年以内に、ディスカウントショップで買い物をした」：1998年 43.3% → 2016年 35.4% (-7.9pt)
- ・「日常的に電子マネーを使っている」：2006年 12.1% → 2016年 42.6% (+30.5pt)
- ・「企業のポイントサービスを、日常的に使っている」：2016年 57.2%

## データ公開のお知らせ

## 24年間・1,500項目の調査結果 公開WEBサイトを更新

「生活定点」調査のほぼ全てのデータを無償公開する「生活定点WEBサイト」も、2016年調査結果を加えてリニューアル・オープンしました。膨大なデータをグラフィカルに「分かりやすく」表示するとともに、「意外な発見や発想のヒントを得たい」方のために様々な切り口でデータを紹介します。（制作協力：チームラボ株式会社）

【URL】 <http://seikatsusoken.jp/teiten/>



【トップページ】



【約1,500の項目別ページ】

性別・年代別・地域別などのグラフも表示できます。



【似てるかもグラフ】時系列グラフの形が似ている2つのデータを紹介。意外な組合せが発想を刺激します。

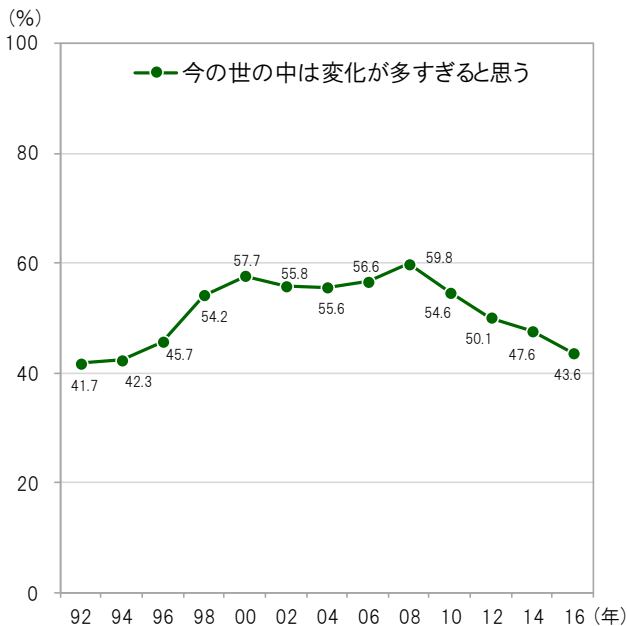
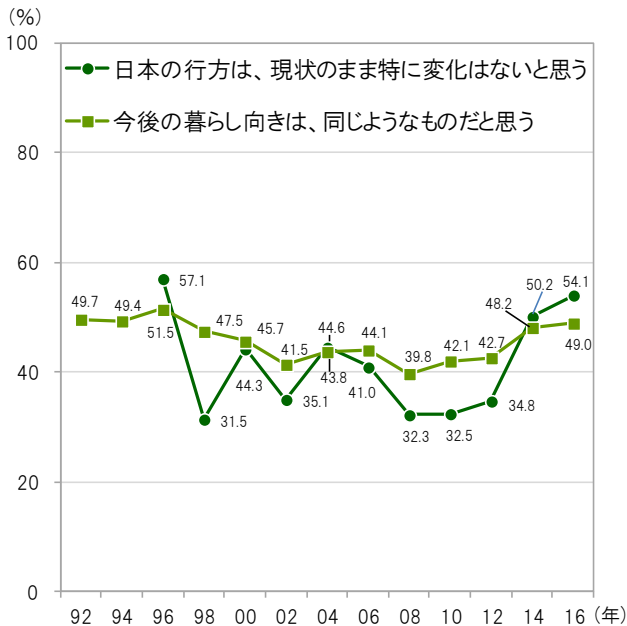


【人の属性で比較】男女差、年代差、地域差が際立った項目などを、約1,500項目の中からピックアップ。

## この先 良くも悪くもならない世の中

「生活定点」調査の分析の結果、日本の“失われた20年”という激動の時代を経て、2010年前後から、生活者に「この先は良くも悪くもならない」という認識が広がっていることがわかりました。生活者は、社会や時代に必要以上に熱く怒りを感じることも、悲観して冷え込むこともなく、現状を静かに受け止め、身の周りに幸せを感じながら暮らしています。

無変化の意識に関連するデータ「日本の行方は、現状のまま特に変化はないと思う」「今後の暮らし向きは、同じようなものだと思う」のいずれも2008年を境に上昇に転じています。また、「今の世の中は変化が多すぎると思う」も2008年を境に減少傾向に入りしました。

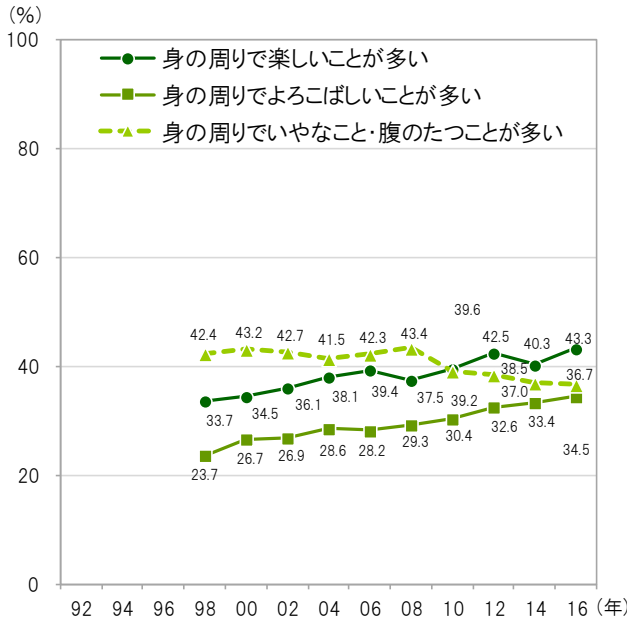
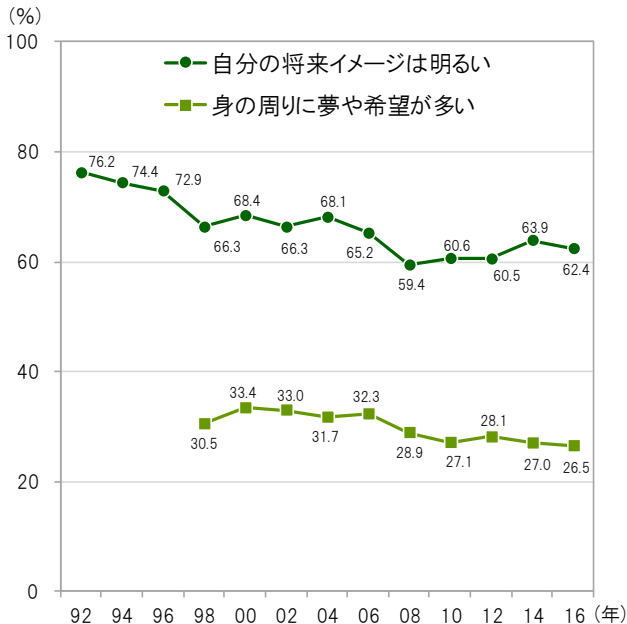


## 生活意識の変化

### 高まる、身近な幸せへの感度

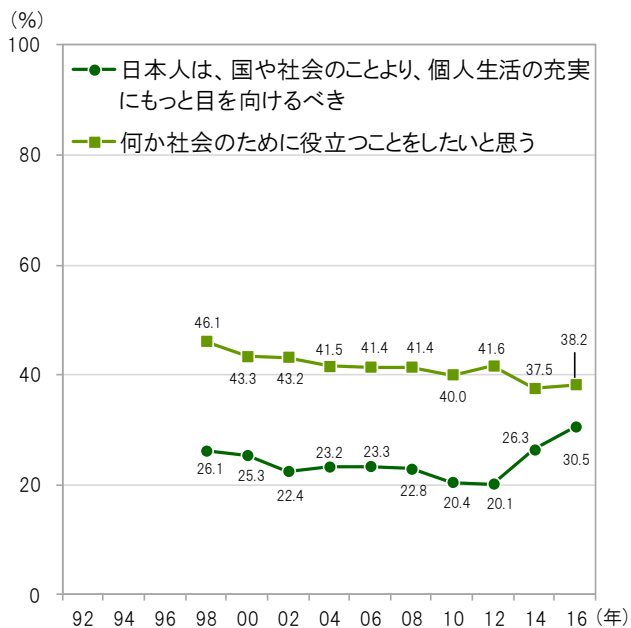
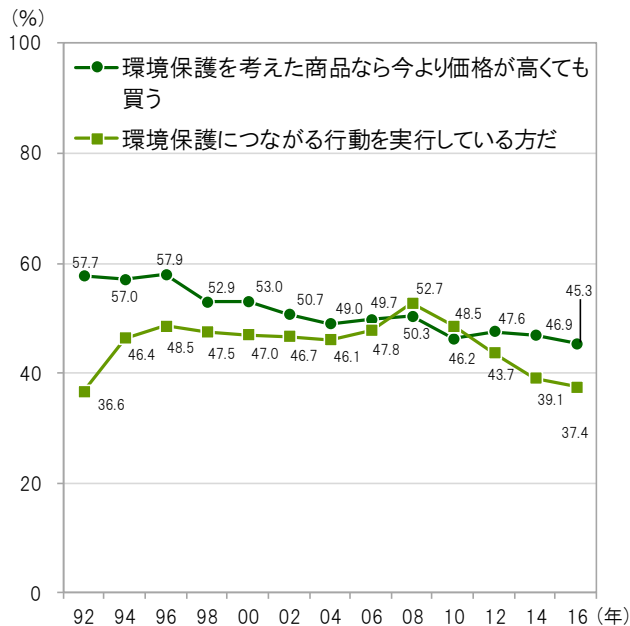
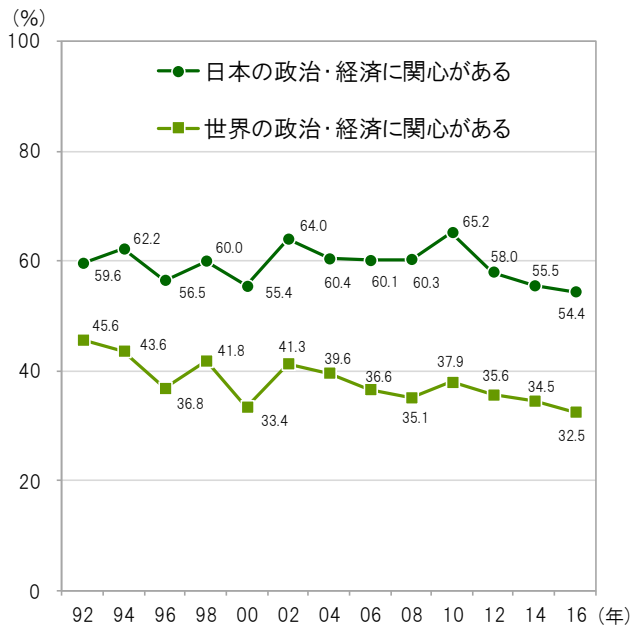
変化の少ない社会では、人びとは将来展望を持ちにくい状況にあるようです。「身の周りに夢や希望が多い」はほぼ一貫して低下傾向にあり、「自分の将来イメージは明るい」は2010年以降横ばいで、かつての水準に回復していません。

一方、「身の周りで楽しいことが多い」「身の周りでよろこばしいことが多い」は増加、「身の周りでいやなこと・腹のたつことが多い」は減少しています。自分の身近で幸せを感じる力が高まっている、あるいは高めているといえます。



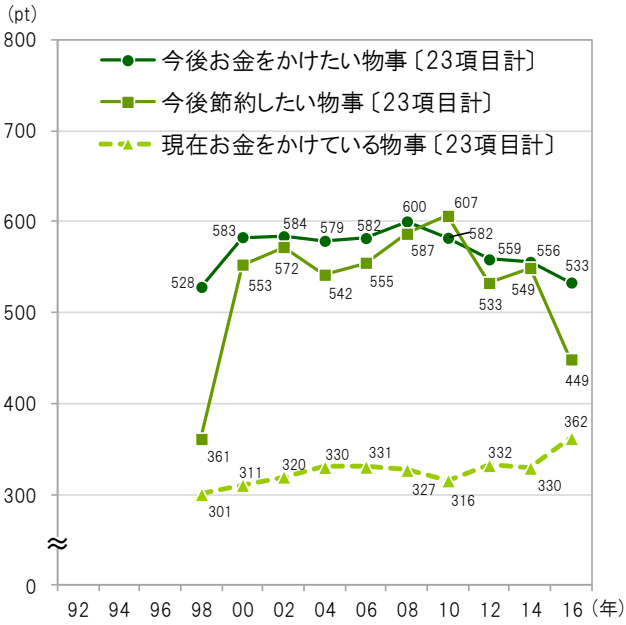
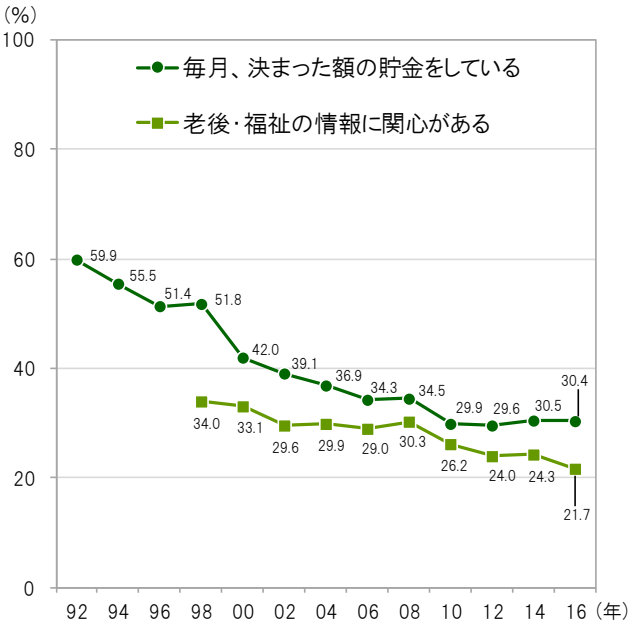
## 公より私

身近な幸せを感じるためか、生活者の関心が公から私へ向かっています。  
 公的な事柄については、国内外の「政治・経済に関心がある」が2010年を境に、連続低下しています。環境保護についても「環境保護につながる行動を実行している方だ」が2008年を境に大きく低下しています。  
 そして、「日本人は、国や社会のことで、個人生活の充実にもっと目を向けるべき」が2012年を底に、増加に転じており、公より私の方に関心がシフトしていることを裏付けています。



先より今

将来よりも今の生活を重視する傾向が顕在化しています。  
「貯金」「老後・福祉」などの将来のことには、関心が薄くなっています。  
また、お金への意識を聴いた23項目の合計値で、「今後お金を使いたい物事」という将来願望を表す数値が低下傾向にあります。「お金を節約したい物事」も低下しており、長期間続いた“将来のための節約”に疲れてきたのかもしれません。一方で、「現在お金を使っている物事」が上昇。お金を使う意識を先より今にフォーカスすることで、身近な幸せを高めているようです。



※合算値のため、少数点以下の数値は四捨五入して活愛します。

【参考】

現在お金をかけている物事〔TOP5〕

	2016年	2014年との差
1 ふだんの食事にかかるお金	31.3%	+3.5pt
2 外食にかかるお金	28.7%	+2.3pt
3 趣味にかかるお金	26.8%	+2.1pt
4 通信にかかるお金(電話、携帯電話、インターネットなど)	24.4%	+4.2pt
5 子供のための教養・勉強にかかるお金	23.1%	+0.5pt

今後お金をかけたい物事〔TOP5〕

	2016年	2014年との差
1 貯金するお金	53.9%	-3.5pt
2 旅行にかかるお金	45.5%	-1.4pt
3 趣味にかかるお金	37.5%	-0.3pt
4 子供のための教養・勉強にかかるお金	30.4%	-4.4pt
5 レジャーにかかるお金(旅行を除く)	29.4%	-0.2pt

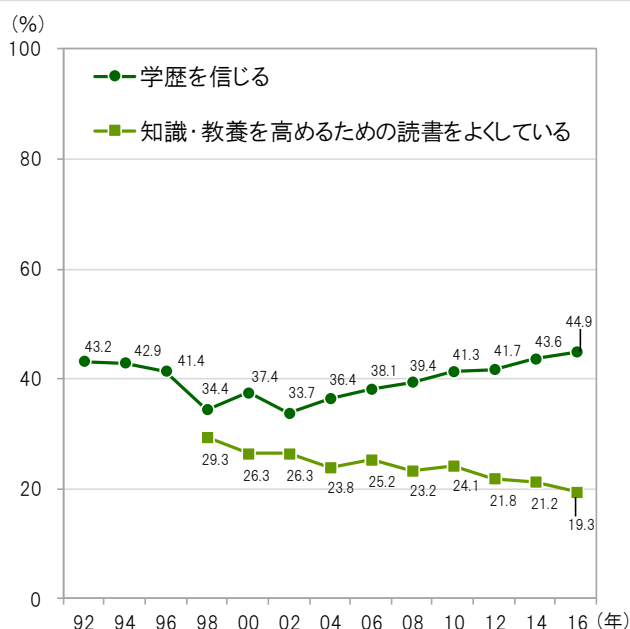
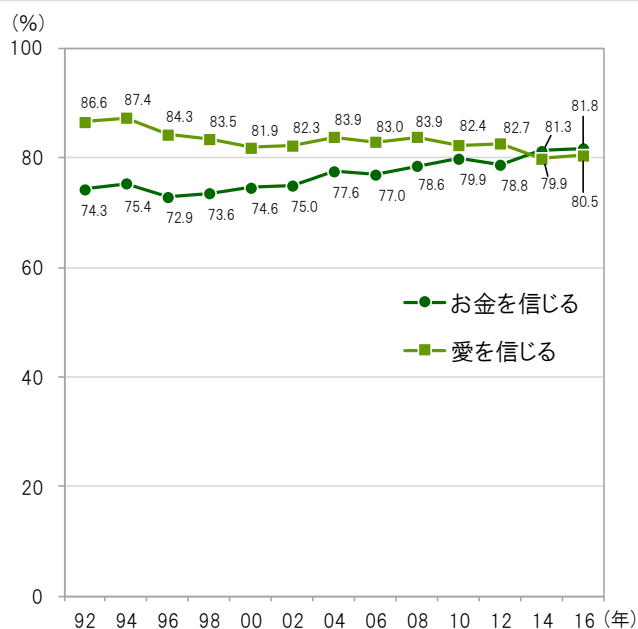
今後節約したい物事〔TOP5〕

	2016年	2014年との差
1 通信にかかるお金(電話、携帯電話、インターネットなど)	42.2%	-4.9pt
2 外食にかかるお金	38.6%	-4.4pt
3 ふだんの食事にかかるお金	36.8%	-3.8pt
4 ふだん着にかかるお金	28.2%	-4.0pt
5 装飾品・ファッション小物にかかるお金	24.5%	-3.5pt

## 生活態度の4つの特徴

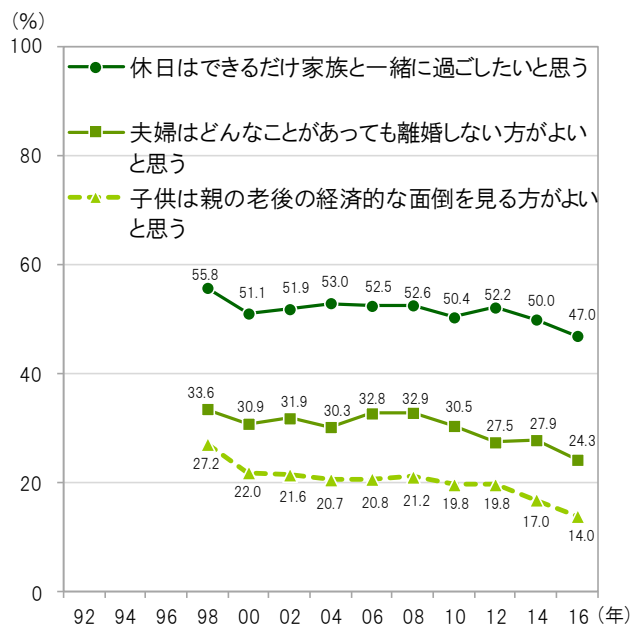
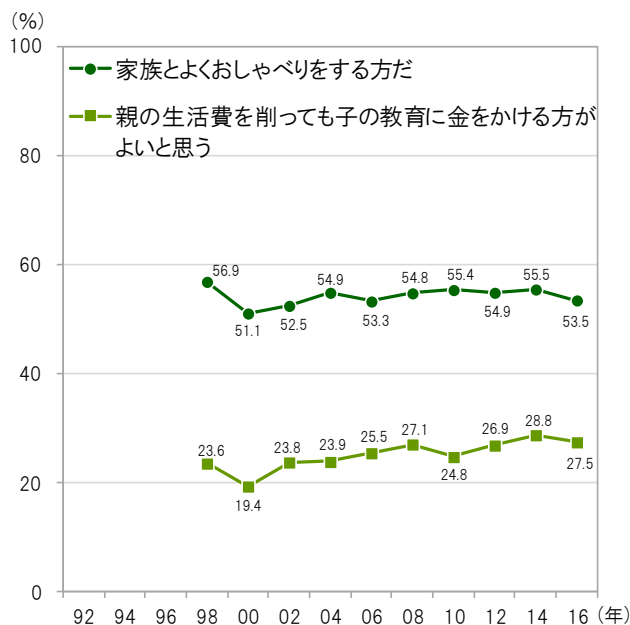
### 期待より現実

漠然とした「期待」よりも、確実に役に立つ「現実」が求められる傾向ができました。信じるものとして、高い水準にあった「愛」が微減傾向にある一方、「お金」が上昇。2014年にはついに「愛よりお金」を信じる時代になりました。また、「学歴」を信じる人が増える一方、「知識・教養のための読書をよくしている」は低下し、生活者がより現実的になっていることを示しています。



### 依存より自立

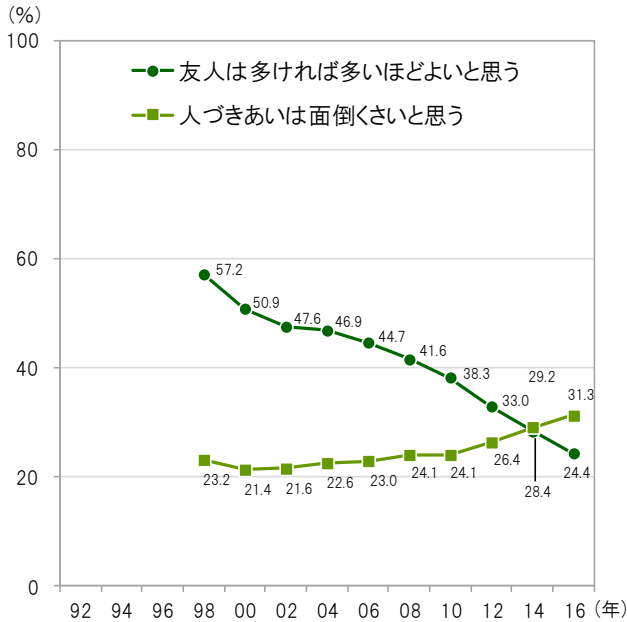
生活者は、誰かに依存するより自立することで、お互いの幸せを高めようとしています。家族関係では、「家族とよくおしゃべりをする方だ」が一定の水準を保ち、「親の生活費を削っても子の教育にお金をかける方がよい」が増加傾向にあるなど、家族の親密さは不変のようです。一方で、「休日はできるだけ家族と一緒に過ごしたい」「夫婦はどんなことがあっても離婚しない方がよい」「子供は親の老後の経済的な面倒を見る方がよい」は近年、低下傾向にあります。決して仲が冷え込んでいるわけでもなくとも、お互いに依存せずに自立した家族関係に向かっていきます。



## その他のトピックス

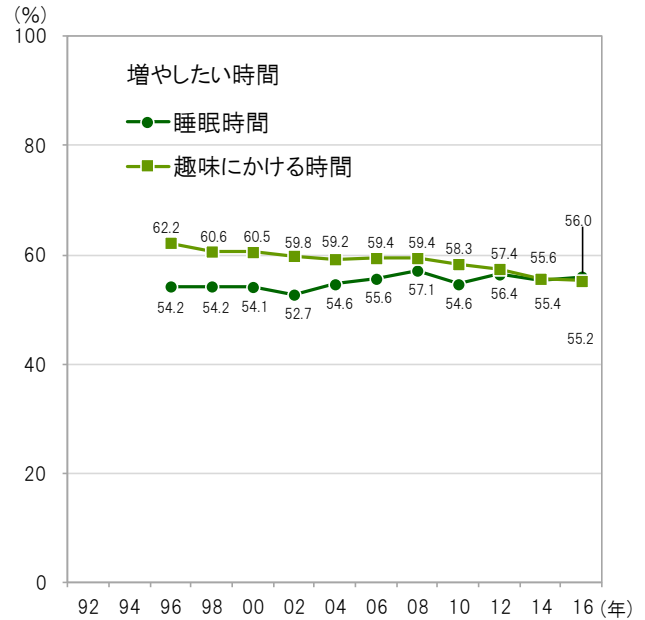
### 「友だち疲れ」が鮮明に

「友人は多ければ多いほどよいと思う」人は1992年に57%いましたが、減少の一途をたどり、2016年には24%の少数派になってしまいました。同様に「人づきあいは面倒くさいと思う」も増加傾向にあります。ソーシャルメディアの隆盛の一方で、「友達疲れ」の意識が鮮明になってきました。



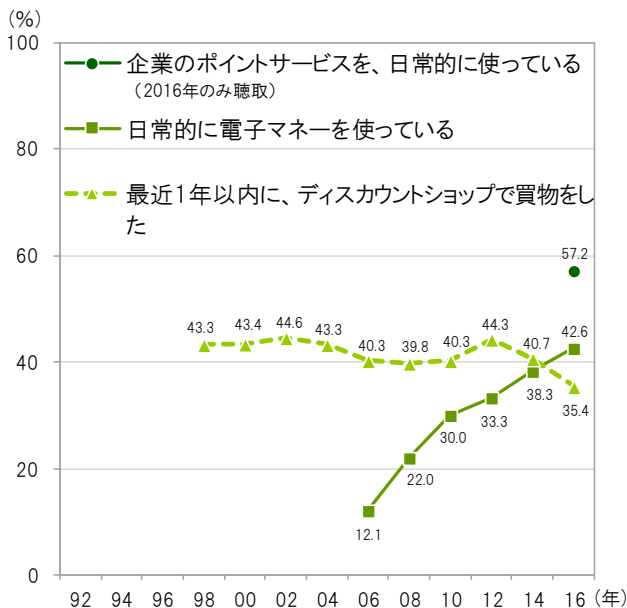
### 増やしたい時間は、趣味より睡眠

「増やしたい時間」として、「睡眠時間」が「趣味にかける時間」を2016年にはじめて上回りました。生活者は今、趣味に割く時間があるなら、その分眠りたいのかもしれない。



### 買物スタイルは、 お金の「節約」より ポイントの「獲得」へ

「節約」の代名詞的存在である「ディスカウントショップ」の利用率が2012年を境に、減少に転じました。一方、「日常的に電子マネーを使っている」人が増加し、「企業のポイントサービスを、日常的に使っている」人は2016年に57%に達しています。これは、どうせお金を使うのなら、ポイントの「獲得」を重視していると解釈することもできます。「節約」より「獲得」は、「常温」を楽しむための方策なのかもしれません。





## 調査概要

- 〔調査目的〕 「生活定点」は、1992年から隔年で実施する定点観測調査です。日頃の感情、生活行動や消費態度、社会観など、多角的な質問項目から、生活者の意識と欲求の推移を分析することを目的としています。
- 〔調査地域〕 首都40km圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県）  
阪神30km圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）
- 〔調査方法〕 訪問留置法
- 〔調査時期〕 1992年から偶数年5月に実施（最新調査は、2016年5月17日～6月6日）
- 〔調査対象〕 20歳～69歳の男女
- 〔サンプル数〕 3,160名（2016年・有効回収数）  
2010年国勢調査に基づく人口構成比（性年代5歳刻み）で割付
- 〔設計・分析〕 博報堂生活総合研究所
- 〔実施・集計〕 株式会社 東京サーベイ・リサーチ
- 生活定点WEBサイト 【URL】 <http://seikatsusoken.jp/teiten/>

## 本件に関するお問い合わせ先

株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所 内濱・夏山（TEL：03-6441-6450）  
株式会社博報堂 広報室 竹本・西尾（TEL：03-6441-6161）